

口もやせたという。倉持さんは

「奥さん。心配はいりませんよ。段々良くなりますよ」と慰めてくれた。

「暴れるのは元気の良い証拠ですから回復も早いですよ」と、勇気づけてくれて有難かったという。

幻覚症状もおおよそ治まった二週間目、二人部屋から八人部屋へ移された。ここは整形外科患者が主である。ここには退院前の人も居り、寝台に座り、屈託なく話し合っている。この人達を見て（ここはやっぱり病院だ）と目が覚めた思いがした。私の心もやっと平静を取り戻した。これから回復は早かった。

五月十六日、退院許可が出、即日退院する。

古稀を迎えて初めて入院生活を体験したが、よい体験をした。入院患者の心を少しでも理解することができたのは、これからの人生にとってよい体験になるだろう。健康で一生を終れば、入院生活の心理は、決して理解できなかった。貴重な体験を得た。この体験を生かしたい。

いろいろ考えさせられることも多かった。退院後は、病院でリハビリを受け、七月二日、三か月ぶりに佐伯に

帰った。

（おわり）

表紙解説

櫻野 観音菩薩立像

光世音・観世音（株）。観自在ともいう。密教にあっては阿弥陀如来の化身となし、よって大勢至菩薩と共に阿弥陀仏の左右にあってその教化を賛得る……（仏教大辞典）この観世菩薩は櫻野庵寺の阿弥陀如来の脇侍である、この仏様は非常に古い年代の如来でその台座に平安末期修理した時記した年号がかかっている。観音様も古い造りである。同年代か鎌倉期の作ではなからうか。頸の三道は薄く上半身裸形で胸から腰へかけてやや細くなって、腰は多少張っている瑛珞は散逸したものか一条、衣はたくし上げ足はやや開き気味また上体を少し前屈みにして立っている姿は童児のような印象を与える。

写真並びに説明 軸丸 勇